

県下で10件目、市内で2件目の国史跡

永納山城跡が国史跡に



永納山城跡のような古代山城で現在確認されているものは、全国でも20数カ所しかありません。

日本書紀などの文献によると、古代山城は西暦663年の「白村江の会戦」に敗れた後、中国や朝鮮半島からの侵襲に備え、都を防衛するために築城されたことが知られています。

永納山城も瀬戸内海の要衝に位置しており、同様の役割を果たしたと思われる。

全国的にも貴重な古代山城

外郭線を構築している。また、対外関係が緊張した時代に瀬戸内海防衛の一翼を担い、畿内地方への侵襲を食い止める目的で築造された可能性が高く、7世紀の対外関係を示す遺跡として重要である」というものです。

なお、史跡に指定された範囲は、東西780m・南北970m、総面積は約40haに及び、その一部は隣接する今治市に含まれています。